舌ニ於ケル良性腫瘍ニ就テ

(其二) 舌軟骨腫ノ一例

Dr. Tatsuo Tanemura und Dr. Hisao Yamagishi.

Über die gutartigen Tumoren der Zunge.

2. Abteilung: Über einen Fall von chondrom der Zunge.

金澤醫科大學耳鼻咽喉科學教室 (主任 松田教授)

醫學博士	種 タネ	村 ムラ	龍 タツ	夫 フ
醫學士	山 ヤマ	岸 ギシ	久 ヒサ	夫 フ

緒 言

舌ニ於ケル良性腫瘍ノ一項目トシテ由來軟骨腫ハ成書ニ記載サレタリト雖モ、内外文獻上軟骨腫ノ報告サレタルモノハ骨腫ト共ニ極メテ稀ナリ。本邦文獻上ニ於テ余等ノ蒐集セル舌ニ於ケル良性腫瘍 145 例中軟骨腫ハ僅ニ秋山氏ノ症例。骨腫ト思ハルベキハ牟田氏等ノ症例ヲ見ルノミ。

泰西ニ於テモ最近ノ文獻ヲ見ルニ骨腫トシテハ Monsarrat(1913), Hirsch(1925), Zucker-

mann(1929), Juug(1931), Greig (1932) ノ 5 例。骨軟骨腫トシテハ Neumark (1930) ノ 1 例ヲ見タリ。Pless (1937) ハ舌尖部ニ生ジタル軟骨腫ヲ見。文獻ニ見ラレタル骨腫。軟骨腫ノ 8 例ヲ蒐集考察スル處アリタリ。

斯クノ如ク舌ニ於ケル純粹ナル骨腫。軟骨腫ハ甚ダ稀有ノ疾患ニ屬ス。余等ハ最近 28 歳ノ婦女ニ於ケル舌背部ノ腫瘍ニ遭遇シ。軟骨腫ナル事ヲ明カニセルヲ以ツテ茲ニ報告セントス。

症 例

患者。杉○初○ 38 歳ノ魚商ノ妻。

昭和 17 年 3 月 3 日初診。外來番號 458。

家族歴。特記スベキモノナシ。

既往病歴。18 歳ノ時肋膜炎ニ罹リ。35 歳ノ時胃潰瘍(?)ヲ患ヒ醫療ニヨリ治癒シ。現在何等ノ障礙ナシト言フ。學子 2 人共ニ健在ナリ。

現病歴。約 12 年程前舌ニ粟粒大ノ腫瘍アルニ氣附キタルモ何等ノ障礙ナキ爲メ放置セリ。

腫瘍ハ長時日間ニ極メテ徐々ニ増大シ約豌豆大ニ達シタルモ最近 2—3 年間ハ殆ド變化ナシ。此間疼痛全クナキモ最近ニ至リ多少ノ異物感アリ。就中纖維性ノ食物嚥下時ニ何等カ「引懸カル如キ感」アリト稱ス。

現症。檢スルニ舌背右側面ニ於テ舌尖ヨリ約 4 cm, 舌縁ヨリ 1.5 cm, 舌正中線ヨリ 0.8 cm ノ部位ニ於テ比較的廣基性ニ豌豆大ノ腫瘍ノ膨

出セルヲ見ル。

第一圖

第二圖

病理組織學的所見 33倍

表面全ク平滑ニシテ淡紅色ヲ呈シ略々球形ヲ呈シ、硬度鞏固ニシテ周圍トノ境界明瞭ナリ。依テ局所麻酔ノ下ニ腫瘍基底部舌組織ニ紡錘狀ノ切開ヲ加ヘ、腫瘍ヲ全摘出セリ。手術創ハ5日ニシテ全治セリ。

摘出セル腫瘍ニ割ヲ加フルニ剖面蒼白色。軟骨様硬度ヲ呈スル物質ノ其大部分ヲ占ムルヲ見タリ。

病理組織學的檢索

剔出セル腫瘍ヲ切斷シ其一半ヲ 10 %「フォルマリン」固定、「ツェロイデン」包埋法ニヨリ標本ヲ製作シ、「ヘマトキシリン・エオジン」複染色ヲ施行シ檢鏡セリ。

腫瘍部上皮ハ重層扁平上皮ニシテ 標本全般ニ於テ上皮ノ消失、缺損セル部ナク炎症所見ヲ認メシメズ。

腫瘍實質ハ軟骨組織ニ等シキ像ヲ呈ス。然レ共其軟骨細胞ハ生理的ノモノニ比シ不定型性ニシテ、圓形ノ他、長圓形、紡錘形或ハ星芒狀ヲ呈シ其大サモ亦甚シク不同ナリ。細胞ノ配列モ亦不規則ニシテ細胞ノ比較的密集スル部アリ。又稀少ナル部アリ。細胞ノ或モノハ其周圍ニ細胞囊ヲ有スルモノアルモ、細胞囊不明瞭ナルモノモ尠カラズ。

其基質ハ細胞囊明瞭ナル細胞ノ集マレル部ニアリテハ比較的一様ニ淡ク染色セル均一ナル組織ナルモ、斯クノ如キハ比較的小部分ニシテ、大部分ニ於テハ基質甚ダ不平等ニシテ斑紋狀皺襞狀ヲ呈ス。

腫瘍中心部ノ一部ニ於テハ「ヘマトキシリン」ニ濃染セル不規則ナル石灰沈着部ヲ認メシムルモ化骨現象ハ認メ得ズ。依ツテ之ヲ軟骨腫ト診斷セリ。

考

舌ニ於ケル軟骨腫ハ蓋シ甚ダ稀有ナルモノタルハ既ニ緒論ニ於テ論ジタル處ニシテ、就中其純粹ナル形ニ於テ見ラル事ハ更ニ稀ナリ。

本邦文献上見ラレタル唯一ノ症例タル秋山氏ノ1例ハ(昭和16年11月9日)53回近畿外科学會ニ於テ稀有ナル舌ノ内軟骨腫トシテ追加サレタルモノナリ。

即チ12歳ノ男子、3歳ノ頃ヨリ舌尖端ニ腫瘍形成ヲ認メ、徐々ニ増大セルモ自覺的苦痛ナシ。腫瘍ハ舌尖部、就中舌下面ニ存シ、小胡桃大略ニ球形ニシテ硬シ。局所麻醉ノ下ニ摘出、治癒シタルモノニシテ摘出セル腫瘍ハ大サ $3.0 \times 2.7 \times 2.0$ cm、重量8gニシテ、組織學的ニ定型的ノ軟骨腫ノ像ヲ呈ストセリ。

Plessハ舌尖部ニ於ケル軟骨腫症例ヲ記載シ、其蒐集セル骨腫、軟骨腫ノ8例中殆ド舌根部ニ發生シ、2例ハ盲孔部、1例ハ舌縁部トシ、斯カル腫瘍ガ舌尖部ニ發生スルハ極メテ稀ナルモノナリトセリ。

Neumarkノ記載セル骨軟骨腫症例ハ58歳ノ女子ニシテ2—3週前ヨリ強度ノ嚥下障礙アリ。檢スルニ約胡桃大ニシテ黃色ヲ呈シ甚ダ硬キ腫瘍ノ左梨狀窩ニ存在セルヲ見、其表面ハ凹凸不平ニシテ、擴張セル血管ノ走行ヲ認ム。精檢スルニ腫瘍ハ比較的細莖ヲ以テ舌根部左舌會厭谷ニ發生セルヲ認メタリトセリ。

斯クノ如ク舌ニ於ケル本腫瘍ハ未ダ其記載サレタルモノ甚ダ尠ク、之ヲ臨牀的統計的ニ觀察

按

スルノ域ニ達セズ。

腫瘍發生部位モ之ヲ骨腫ト共ニ觀察スル時舌根部及ビ其附近ニ發生スルモノ多キモ舌尖、舌背、舌縁ニモ之ヲ見ラレタリ。就中舌根部附近ニ發生セルモノニアリテハ比較的細莖ヲ以ツテ下咽頭、喉頭ニ向ツテ生長増大スルモノ、如シ。

本腫瘍ノ發生原因或ハ發生轉歸ニ關シテハ秋山ハMetaplasie説、Neoplasie説等種々稱ヘラル、モ、成熟胎兒及ビ新生兒ノ舌中隔ノ下ニ約30%存スルト言ハル、軟骨組織(Knorpelinsel)ガ成人ニ於テモ見ラルト言フGentscheffノ研究ハ相當重視スベキモノニ非ズヤト思考ストセリ。

周知ノ如ク本腫瘍ガ生理的ニ軟骨ノ存在セザル部分ニ發生スル時ハEnchondromト稱スベキモノニシテ、骨以外ノ軟部ニ發生スルモノハ胎生期ニ於ケル軟骨原基ノ迷入ニ歸スベシト説明サレタリ。

余等ノ症例ニアリテモ亦腮弓ノ軟骨芽ノ迷入ニ基因スルモノト推定セントス。

本腫瘍ノ適確ナル診斷ハ病理組織學的檢索ニ俟タザルベカラズ。余等ノ症例ニ於テモ其硬度硬ク聊カ疑問ヲ殘セリト雖モ、臨牀的ニ之ヲ硬性纖維腫ト推定セルニ拘ラズ、病理組織學的檢索ニヨリ初メテ甚ダ稀有ナル軟骨腫ト確診サレタルモノナリ。

結

本症例ハ38歳ノ妻女ノ舌背右側ニ見ラレタ

論

ル豌豆大ニシテ比較的廣基性ニ發生セル腫瘍ノ

病理組織學的檢索ニヨリ軟骨腫タルヲ明カニシ
得タルモノナリ。

舌ニ於ケル純粹ナル軟骨腫ノ記載ハ甚ダ尠
ク。蓋シ極メテ稀ナル症例ナリ。

撰筆ニ際シ松田教授ノ御校閲ヲ深謝ス。尙ホ本症例ハ大日本耳鼻
咽喉科會北陸地方會第59回集會ニ於テ種村ニヨリ報告サレタルモノ
ナリ。

文

献

1) 秋山卓三・稀有ナル舌ノ内軟骨腫ノ1例。日
本外科實函 第18卷。第6號。1067頁。昭16。 2)
Greig, D. M: Osteoma of the tongue. Zbl. H.
N. O. Heilk. Bd. 18. S. 473. 1932 3) **Hirsch, O**:
Knochentumor am Zungengrund. Zbl. H. N. O.
Heilk. Bd. 7. S. 879. 1925. 4) **Jung, G**: Ueber
eine Osteom der Zunge. Brun's Beitr. Bd. 154.
H. 2. S. 167. 1931. 5) 牟田哲三郎。緒方健:

舌根部骨腫症例追加。耳鼻咽喉科第11卷。第11號。
1016頁。昭13。 6) **Neumark, K**: Osteochon-
drom des Zungengrundes. Mschr. Ohrenheilk. Jg
64. S. 1000. 1930. 7) **Pless, B**: Der Fall eines
Chondroms der Zungenspitze. Zbl. H. N. O.
Heilk. Bd. 27. S. 682. 1937. 8) **Zuckermann,
M**: Ein Fall. von Osteom der Zunge. Zschr.
H. N. O. Heilk. Bd. 25. S. 118. 1937.

(原稿到着ニ昭和18・9・18)